

第三十五回フオト旬会優秀作品(25年12月9日)

<自由題>



風去って日向ぼこする

落ち葉かな 大越 浩平
寸評：雪止め釘に引っかかった落ち葉。一年のうちこの情景をみられるのは何日も無い。写真も上手ければ、句も詩情を感じさせる傑作である。

食の秋そぎ落としてや

腹の肉 池田 隆
寸評：回転する肉塊に刃物を当てて薄い肉片をそぎ落とす。トルコなどで見られるケバブ。食欲の秋ではあるが、自分の膨らんだ腹もそぎ落としたい感じだ。



添乗員僕か小旗の

目立つ方 安藤 晃二
寸評：ツアーの客によく見えるように小旗を高くあげているが、旗よりは太い腹のほうがよく目立つ。この添乗員はケバブを食べ過ぎたためか？

重心に逆らう姿勢

政治的 平尾 富男
寸評：裸婦が横になって不貞腐れている。時の政府の横暴に無言の抗議をしているのか？



句 付 け

11月の御題写真



幼き日 退屈だった昼下がり 池田 隆

お姉ちゃん 家出するのはまたにしよ 三 春

この子らの時間とまれと親心 大月 和彦

両親に この関係をいつ話す? 中村 晃也

寸 評：今月は平尾さん出題の可愛い男女の二人が並んで路傍に座っている写真です。

池田さん：誰もいない午後、子供達だけで遊んでも直ぐに飽きてしまう。二人で何をしようかな？相談している姿がほほえましい。

三春さん：家の人に叱られて一度は二人一緒に家出をと思い立ったが、勇気がでない。考えれば考えるほど勇気がでなくて…。

大月さん：二人のあどけない姿を垣間見て、親はいつまでも可愛いままでと思うのである。十年もすれば憎たらしい子になるに。

中村さん：おませな二人は恋に落ちている。両親にいつ打ち明けるか相談中。皆さんもこんな懐かしい思い出をお持ちではありませんか？